

# 町村週報

( 町村の購読料は会費  
の中に含まれております )

## 2320号

毎週月曜日発行

〒100 0014 東京都千代田区永田町 1 丁目11番35号 : 電話03 3581 0486番 FAX03 3580 5955

発行所 **全国町村会** 発行人 渡辺 明 : 定価 1部40円・年間 1,500円( 税、送料含む ) 振替口座00110 8 47697

### 閑話休題

町村長から「首長になってみて、こんなに働かない職員が多いのか」と驚いている。どうも地公法に原因があるのではないかと訊かれることがある。それも役場と職員の活性化に意欲をもつ首長であればあるほど、そう感じるらしい。地公法の原因があるというのは、どうやら、一度役場に入ってしまうと、地公法による強固な身分保障によって、よほどのことがない限り、降任も免職もないために、安心が高じて、安逸に陥ってしまっていることを指しているようである。

なるほど、地公法上は、一般の職員には任期制はないし、職員の意に反して降任又は免職にできるのは、



尾瀬ヶ原

①勤務実績が良くない場合、②心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えない場合、③前②号に規定する場合の外、その職に必要な適格性を欠く場合、④職制若しくは定数の改廃又は予算の減少により廃職又は過員が生じた場合」に限られている。②は明白であれば、

### 職員の降任・免職・任期制

③は職階制が徹底されていないから死文に近い。①と③には客観性と公平性に裏打ちされた職員評価が必要であり、昇任人事は「競争試験」ではなく「選考」で行い、しかも年功(年齢)序列が基本になり、能力・実績を重視した人事管理など行っていないから、ほとんど適用していないに等しい。しかも、降任もまして免職などとも気の毒だという人情論も強い。

しかし、地公法上は、首長等は職員の執務について定期的に勤務成績を評定して、その評定の結果に応じた措置を講じなければならない」となっている。問題は、この評定の制度と手法の技術革新であり、職員の意向を尊重した(希望制の)降任又は免職であり、さらに、定期的に公務員としての適格性を吟味し任用する仕組みである。分権時代はより厳正な職員評価を求めている。やがて任期制の導入も議論になろう。

(千葉大学教授・東京大学名誉教授 大森 彌)

活動 平成13年度政府予算編成・施策で要望 = 全国町村会 .....(2)

活動 全国町村会役員が、関係省庁に実行運動展開 .....(5)

随想 地域の特色を人づくり、町づくりに生かして .....千葉県町村会長・睦沢町長 河野 功.....(23)

もくじ

平成  
13年度**政府予算編成・施策で要望 全国町村会****地方分権の推進、町村財政基盤の強化を求めて**

政務調査会（六月二十二日開催）

全国町村会は6月22日の政務調査会、翌23日の常任理事会で「平成13年度政府予算編成ならびに施策に関する要望」を審議、決定し、常任理事会終了後、要望実現のため本会役員が関係各省庁に対し実行運動を行った。

同要望書は、各省庁の明年度概算要求作業に向けて取りまとめたもので、町村が自主的、主体的な地域づくりの施策を推進できるよう地方分権の推進をはじめ町村財政基盤の強化、保健福祉対策、地域活性化対策、農林水産業対策など42項目にわたる要望となっているが、今後、明年度予算に対する各省庁の検討状況や都道府県町村会からの追加要望をふまえて修正をおこない、7月末に再度要望することになっている。

活 動



自治省香山官房長(中央)と左から宇都宮副会長、山本会長、佐々木副会長



自治省嶋津財政局長(中央)と左から宇都宮副会長、山本会長、佐々木副会長、渡辺事務総長



建設省小川官房長(右)と右から安井(滋賀)、藤本(岡山)、富田(埼玉)の各監事



建設省小川下水道部長(中央)と左から熊澤(岐阜)、藤本(岡山)、安井(滋賀)、富田(埼玉)の各監事



厚生省近藤保険局長(左)と野中(京都)、河野(千葉)、菊池(青森)、塚田(愛知)、富永(熊本)の各常任理事



厚生省大塚老人保健福祉局長(左手前)、堤大臣官房審議官(同隣)と右側手前から野中(京都)、河野(千葉)、菊池(青森)、富永(熊本)、塚田(愛知)の各常任理事



伴林野庁長官(中央)と左から八木(香川)、伊藤(新潟)、松本(佐賀)、江原(山口)の各常任理事



農林水産省石原経済局長(中央)と左から八木(香川)、江原(山口)、伊藤(新潟)、松本(佐賀)の各常任理事

役員が関係省庁に実行運動を展開



## 活 動

## 平成十三年度政府予算編成・施策に関する要望

## 一、地方分権の推進

二一世紀を目前に控え地方分権が実施の段階に移った今日、住民が誇りと展望を持った活力ある地域社会を構築することは、地方自治体にとって最も重要な課題である。

よって国は、地方分権の一層の推進に向け、次の事項を実現されたい。

1、地方税・地方交付税等地方一般財源を確保するなど、必要な措置を的確に講じること。

2、今後、一層の事務・権限の移譲を推進すること。

3、権限移譲の「受け皿」整備の見地から市町村の合併を強制することのないよう十分留意すること。

なお、市町村合併の強制を意図した地方交付税算定の見直しは絶対に行わないこと。

## 二、町村財政基盤の強化

町村は、自主税源が乏しい中、地方分権の進展を踏まえ、介護保険の実施など少子・高齢社会への対応、社会福祉施設等の充実、相対的に立ち遅れている生活関連施設の整備、厳しい条件下の農林水産業の振興等、自主的・主体的な地域づくりのため、各般の政策課題を着実に推進する大きな役割が求められている。

よって、国は町村財政基盤を強化するため、次の事項を実現されたい。

1、地方分権の一層の推進に向けて、地方税・地方交付税等の地方一般財源を確保するなどの確かな措置を講じること。

2、地方交付税制度の充実強化

(1) 町村が安定した財政運営ができるよう、地方交付税所要額を確保すること。

(2) 税源の偏在による財政力の是正および一定の行政水準の確保をはかるため、財政調整機能は、極めて重要であるので、基準財政需要額の算定にあたっては、町村のもつ役割を十分考慮し、実態を的確に反映した

きめ細かい財政需要の算定をはかり、町村への傾斜配分を強化すること。

(3) 地方交付税が地方の固有財源であることを明確にするためにも、国の一般会計を経由せず、交付税特別会計に直接繰り入れること。

(4) 町村の公債費負担が増高していることにかんがみ、元利償還金に対する地方交付税算入率の引上げおよび対象事業の拡大をはかること。

3、低水準にある町村の重点的、計画的な社会資本整備のための公共投資については、国庫補助事業および地方単独事業にかかる地方負担所要財源を十分確保すること。

4、町村税源の充実強化

(1) 地方税は、地方分権を實質的に担保する、地方自治の基礎を支えるものであり、地方の歳出規模と地方

税収入の大幅な乖離を縮小するため

にも、所得税の移譲や地方消費税の拡充等による税源移譲などにより、租税総額に占める地方税のウエイトを高め、町村税源の充実強化をはかること。

(2) 個人住民税は、町村における、負担分任を基調とした基幹的な税目であるので、安定的にその充実ははかられるよう措置すること。

(3) 株式の売買による譲渡益課税については、既定方針どおりに実施すること。

(4) 地方法人課税に関しては、町村にとつて重要な税源であるので、法人住民税総額についてこれを確保すること。

また、分割法人の法人住民税について、課税標準にかかる分割基準に事務所または事業所の固定資産を加える等の措置により、配分割合の適正化をはかること。

なお、法人事業税への外形標準課税の導入について、都道府県財政の安定化は町村財政にとつても極めて重要であるので、その導入をはかること。

(5) 固定資産税は、収入の普遍性・安定性に富む、町村財政における基幹税目であることから、その安定的確保がはかられるよう、特に配慮すること。

(6) ゴルフ場利用税は、道路整備、環境対策など町村の行政サービスと密接な関連を有しているとともに、その一〇分の七が関係市町村に交付されており、特に財源に乏しく山林原野の多い町村の貴重な財源とし

て、地域振興をはかる上で重要な役割を果たしているため、本税の充実、確保をはかること。

(7) 租税負担の公平を期する見地から非課税等特別措置については、さらに整理合理化をはかること。特に、固定資産税等の非課税措置、課税標準の特例措置の整理合理化を行うこと。

また、国の租税特別措置等については、地方への支障を来すことのないよう、必要な措置を講じること。

(8) 軽自動車税の各標準税率を引き上げること。

また、軽自動車税のうち原動機付自転車については、課税の在り方等について実態に見合った見直しを行うこと。

(9) 入湯税の税率を引き上げること。

(10) 遅れている町村道等の整備を促進するため、町村にとつて重要な道路特定財源を確保するとともに、町村への配分割合を引き上げるなど、道路財源の充実強化をはかること。

(11) 個人都道府県民税にかかる徴収取扱費交付金の増額をはかること。

(12) 地方税法改正については、年度末専決を行わなくてもよいよう、同法の早期成立をはかること。

## 5、地方債の充実改善

(1) 財政投融资制度の改革後においても、地方債資金の調達に支障を生じないよう必要な措置を講じること。

(2) 過疎地域の自立促進のための各種施策を推進するため、過疎債の所

活 動

要額を確保すること。

また、辺地債の所要額を確保すること。

(3) 高利の公的資金にかかる地方債について、繰上げ償還など適切な負担軽減措置を講ずること。

(4) 道路改良事業の弾力的運用をはかることとし、町村道整備にかかる起債対象範囲を拡大すること。

6、第三セクター等の経営の状況にかんがみ、今後の社会経済情勢の変化に対応したあり方についての指針を踏まえ、運営改善のための所要の措置を講ずること。

7、過疎地域、辺地、山村、豪雪地帯、半島地域、離島などの町村および人口急増町村等に対し、地域の実情に即した財政措置を講ずるよう、特に配慮すること。

三、国・地方間の財政秩序の確立

「地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律」が施行されたが、真の地方分権を実現するためには、国庫補助負担金の整理合理化、および地方税財源の拡充強化等を積極的に推進する必要がある。

よって国は、次の措置を実現されたい。

1、国庫補助負担金の整理合理化を一層推進するとともに、事務・権限の移譲にあたっては、地方税・地方交付税等の地方一般財源を確保するなど必要な財政措置を的確に講ずること。

2、国庫補助負担金の統合・メニュー化を促進するとともに、地方超過負担の完全解消および補助対象資産の有効活用・転用等について、その運用・関与の改革を一層推進すること。

3、具体的な事業箇所・内容について地方公共団体が主体的に定めることができる統合補助金制度を推進すること。

四、ペイオフ凍結解除後における地方公共団体の公金預金の保護

ペイオフ凍結解除にあたっては、預金保険法の改正により、地方公共団体についても全額保護されることとなったが、歳計現金を除く預託金、基金等については平成十四年四月から、また、歳計現金についても平成十五年四月から凍結解除となり、一、〇〇〇万円超の部分について預金保険の保護措置がない状態となる。

殆どの地方公共団体では、地域経済対策としての地元金融機関の活用や、中小企業等への制度融資にかかわる預託等、安全確実という基準だけで預入先を選択することが困難な状況にある。

仮に、預入先の金融機関が破綻し、公金預金が喪失した場合、特に財政基盤が脆弱な町村にとっては直ちに財政破綻につながることもあり、町村としての行政執行に支障を生じ、住民生活に重大な影響を与えるだけでなく、住民の共有財産の喪失として多大な損失となる。

よって国は、金融機関の健全性の確保、情報開示の徹底等金融環境の整備を推進するとともに、ペイオフ凍結が解除される平成十四年四月以降について、引き続き公金預金の保護のための必要な措置を講ずること。

五、国土政策の推進

国土政策は、国土の均衡ある発展をはかることが基本である。国土総面積の七二%を占める町村は、人口減少と少子・高齢化が進行しており、国土の保全や地域社会の維持に苦慮している。こうした中、相対的に立ち遅れている地域の国土基盤の整備を急ぐとともに、二一世紀に向って全国のそれぞれの地域が特性を生かした適切な役割を担っていけるよう、地方重視の国土づくりを展開する必要がある。

また、先の大震災等の教訓を踏まえ、災害に強い安全なまちづくり、むらづくりをはかることにも配慮すべきである。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、「21世紀の国土のグランドデザイン」を効果的、かつ着実に推進するため、戦略推進指針に沿って地域づくりの支援等を行うとともに、21世紀の国土計画のあり方に関する基本的な考え方を取りまとめるにあたっては、多自然居住地域と位置づけられ、国土の保全と利用について大きな役割を担う町村の意見を充分

反映すること。

また、森林、農地等、国土資源の保全、管理が喫緊の課題となっていることを踏まえ、国民の幅広い合意を基礎とした担い手確保等のための施策を確立し、推進すること。

2、災害に強い国土づくりのために、長期的視点に立って人口および産業の地方分散を推進すること。加えて、国の行政機関、研究学園施設等については地方定住、特に若者の定住にも配慮して広く地方に分散・立地させること。

3、新産業都市及び工業整備特別地域における生活環境の整備、新産業の育成等を推進するため、平成十二年度末で期限切れとなる、新産業都市建設及び工業整備特別地域整備のための国の財政上の特別措置に関する法律」による国の財政上の特別措置を延長するなど、指定地区に支障が生じないよう特段の措置を講ずること。

4、地域主導による個性的で魅力ある地域づくりを推進するため、権限の移譲および財政措置の充実強化をはかるとともに、地域づくりに資する情報の提供等、適切な支援策を講ずること。

5、農山漁村地域を活力にあふれた住みやすい地域として再生するため、美しいむらづくりを推進するとともに、農林漁業振興対策等、各般の施策を拡充強化し、総合的、計画的に推進すること。

また、都市や農山漁村等の広域的な交流・連携を促進すること。

## 活 動

6、人口の減少と高齢化の加速等により放置されている山村の森林、中山間部農地等については、国土管理に配慮した適切な措置を講ずること。

7、高規格幹線道路および空港等、高速交通網の整備を推進すること。

特に、航空輸送の果たす役割の飛躍的な増大にかんがみ、地方空港の整備を積極的に推進すること。

8、整備新幹線の整備については、

国土の均衡ある発展を図り、豊かさを実感できる国民生活を実現するために不可欠なプロジェクトであるので、早期着工、早期完成を旨として推進すること。

9、情報格差の是正、住民サービス向上のため総合的、計画的な地域情報化を促進すること。

特に、電気通信格差是正事業の拡充等により、自治体ネットワーク、光ファイバー網、移動体通信、CATV等の高度情報通信基盤の整備を推進すること。

10、港湾整備事業は、豊かで活力ある地域づくりをはかるうえからも重要であることにかんがみ、第九次港湾整備七箇年計画を着実に推進すること。

11、第六次海岸事業七箇年計画を着実に推進すること。

12、過疎地域、辺地、山村、豪雪地帯、半島地域、離島などの町村に対する振興施策を積極的に推進すること。

## 六、地域活性化対策の推進

国土の均衡ある発展をはかる見地から、財政基盤の弱い町村を重点的に活性化し、地域経済の再生、少子・高齢社会への対応をはじめ、若者も定住する豊かで住みよい地域社会を構築する必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、町村が自主的・主体的に取り組む地域づくりを推進するため、ふるさと関連施策を充実すること。

特に、地域が創意に基づき「地域経済新生」「人づくり」等に主体的かつ総合的な取組みを行うことができるよう、地域活力創出プラン関連事業を推進すること。

2、過疎地域、辺地、山村、豪雪地帯、半島地域、離島などの持つ国土保全、水源涵養等の公益的な機能の重要性にかんがみ、これら特定地域に対する振興施策を推進するため、特別な財政措置を講ずること。

3、地域づくりと住民生活充実のため、文化、スポーツ施設の整備と有効活用の促進をはかるとともに各種活動への住民参加の促進対策等を強力に支援すること。

4、農山漁村地域が果たしている公益的役割の見地から、後継者の育成・確保、定住促進対策等の取組を支援するため、国土保全対策事業を充実すること。

5、地域活力の低下している農山漁村地域の活性化と農林漁業の体質強化をはかるため、農山漁村関連施策および農林漁業振興対策を強力に推進すること。

温泉よりもっと『温泉』!

準天然

ト

ロ

ン

温

泉



自治体事例＝ごみ焼却施設の余熱を利用した埼玉県朝霞市の「憩いの湯～ぐうじょう」

### ★自慢のふるさとをつくりませんか?! トロン温泉

地域が誇れる自慢の施設に自治体も、住民も満足しています

### ★“活” トロン温泉で若返るふるさと

高齢化社会の救世主として評価が高まる究極施設です

### ★トロン温泉がつくる元気な街!

数100の自治体がトロン温泉を設置し、実績を上げています

### ★“夢舞台” 歓声が聞こえるトロン温泉

老若男女が集う新コミュニティ施設として、自治体の新名所に

◆ランニングコストが天然温泉の1/10で済むトロン温泉は、行財政改革の救世主です。

◆数100の自治体が、天然温泉からトロン温泉に切り替えて成功しています。

企画立案から設計施工、施設運営まで協力します/富士山麓入浴施設の体験入浴セミナー申し込み・資料請求を受け付け中

(株)日本トロン開発協会 〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-14-12 TEL: 03-3221-1601(代) FAX: 03-3221-1361

活 動

- 6、町村が地理情報システム(GIS)を活用し、国土空間データ基盤を把握することにより、事務事業の効率化をはかるとともに、災害時におけるライフライン等の情報の一元的な把握を可能とするため、地域レベルの地理情報システム(GIS)の整備、普及の促進に格別の支援措置を講ずること。
- 7、情報通信格差の是正をはかるとともに、高度情報通信社会の進展に対応した地域の情報化を促進するため、光ファイバー網、移動体通信、情報拠点施設およびCATV等の高度情報通信基盤の整備等を推進すること。
- 8、地域住民が不便なく情報化の成果を利用することを可能にする町村の取組を推進するとともに、複数の町村が行う情報システムの共同開発事業に対して支援すること。
- 9、地域産業創造対策および新地域経済基盤強化対策を推進するとともに、財政措置を充実すること。
- また、地域の自主性を尊重しつつ地域雇用対策を推進すること。
- 10、国際化に対応した地域づくりのため、町村が実施している国際交流・国際協力事業および在日外国人に関する対策等について財政措置を充実すること。
- 11、総合保養地域整備法によるリゾート地域の整備にあたっては、自然や生態系に充分配慮しつつ、町村の活性化をはかる見地に立って、総合的かつ機動的に推進すること。
- 12、人口が急増する町村は、小・中

学校等の教育施設、公共下水道、廃棄物処理施設等の生活環境施設など緊急に整備する必要があるため、その事業量を確保し、地域の実態に即するよう財政措置を強化すること。

七、子育て支援対策の推進

わが国においては、近年の著しい少子化の中で、子ども同士のふれあいの減少などにより、子どもの自主性、社会性が育ちにくく、また、社会保障費用にかかる現役世代の負担の増大、社会の活力の低下等への影響が懸念される状況にある。このため子ども自身が健やかに育っていきける社会、子どもを安心して生み育てることのできる環境づくり等の強力な推進が求められている。

よって、国は子育て支援のための対策を総合的、計画的かつ緊急に推進すること。

八、社会福祉対策の推進

夫婦共働き世帯の一般化、核家族化の進行等に伴い、家庭における保育機能や介護機能が低下してきている。このため、地域住民のニーズに対応した保育制度の充実及び障害者が安心して暮らせる福祉のまちづくり等の推進が課題となっている。よって、国は次の事項を実現されたい。

- 1、児童福祉対策等の推進
- (1) 保育制度の充実
- ア、新エンゼルプランの着実な実施をはかること。
- イ、保育所運営費の基準の改善を

はかるとともに、特別保育にかかる財政措置を充実すること。

ウ、保育制度にかかる国の財政負担を地方へ転嫁しないこと。

(2) 児童健全育成対策にかかる財政措置を充実すること。

(3) 保育所、幼稚園の連携強化及び施設の総合化をはかること。

(4) 母子、父子家庭対策を充実すること。

(5) 乳幼児にかかる医療費の無料化を制度化すること。

2、障害者保健福祉対策の推進

(1) 障害者プランを着実に実施すること。

(2) 障害者保健福祉対策にかかる財政措置を充実すること。

(3) 身体障害者更生援護施設にかかる措置費基準の改善をはかること。

(4) 障害者スポーツの振興をはかること。

3、社会福祉協議会等の充実

(1) 市区町村社会福祉協議会の活動費にかかる財政措置を充実すること。

(2) 民生(児童)委員の活動費にかかる財政措置を充実すること。

九、義務教育施設等の整備促進

二一世紀を間近に控え、わが国の将来を担う子どもたちを時代の進展に即応し、心身ともにたくましく育成するため、安全かつ快適で特色ある教育環境づくりが重要である。よって、国は次の事項を実現されたい。

- 1、義務教育施設等整備事業につい

ては、町村が必要とする事業量を確保するとともに、財政措置を拡充すること。

2、学校給食については、地域の実情に即した給食施設及び設備にかかる財政措置を充実するとともに、米飯給食に対する財政措置を講ずること。

また、集団食中毒対策の充実・強化をはかること。

3、学校図書館図書等の整備に対する財政措置の充実をはかること。

4、小・中学校等にかかる現行の放送受信料免除措置を継続すること。

5、心豊かなゆとりある教育の実現をするため、学習指導要領の改訂を図ること。また、少人数教育を促進するため、一学級定数標準を緩和すること。

一〇、青少年の健全育成対策の強化

二一世紀を担う青少年の健全育成のため、家庭、学校ならびに地域社会が一体となって強力に推進する総合的な対策が必要である。よって、国は次の事項を実現されたい。

1、青少年の団体活動、ボランティア育成活動等青少年育成国民運動を一層推進すること。

2、学校生活におけるいじめや、非行等の問題行動が多発している現状にかんがみ、生徒指導の充実強化、その他児童・生徒を健全に育てるための心の教育を一層推進すること。

- 3、特に最近の青少年による凶悪事

## 活 動

件の頻発にかんがみ、専門的見地からの原因究明をはじめ、その防止対策を総合的に推進すること。

## 一一、生涯学習等の振興

人々がいつても、自由に多様な学習機会を選択して学ぶことができ、心にゆとりと潤いのある生涯を送れるようそれぞれの地域の実情にあった生涯学習推進体制を整備する必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、生涯学習振興事業については、町村が必要とする事業量を確保するとともに、財政措置を充実すること。

2、生涯スポーツの普及振興事業については、町村が必要とする事業量を確保するとともに、財政措置を充実すること。

3、史跡等文化財保護に対する財政措置を充実すること。

## 一二、老人保健福祉対策の推進

高齢社会の到来を踏まえ、新たなシステムに対応した基盤整備を計画的に推進するとともに、高齢者の生きがいと健康づくりを強力に推進する必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

## 1、老人保健対策の推進

(1) 老人医療費に対する国の負担割合を拡充すること。

(2) 老人医療費拠出金の算定にかか

と。

また、退職者にかかる老人医療費拠出金の全額を退職者医療制度で負担すること。

(3) 老人保健事業にかかる財政措置を充実すること。

(4) 介護老人保健施設については、町村が必要とする事業量を確保するとともに財政措置を充実すること。

2、老人福祉対策の推進

(1) ゴールドプラン21の着実な実施をはかること。

(2) 養護老人ホーム等にかかる措置費基準の改善をはかること。

(3) 在宅福祉施策及び老人福祉施設については、町村が必要とする事業量を確保するとともに地域の実情に応じた整備ができるよう財政措置を充実すること。特に、小規模特別養護老人ホーム等の設置基準等の緩和をはかること。

(4) 高齢者がその実態に応じ、就業の機会を確保できるよう雇用対策を充実すること。また、知識と経験を活かせる適当な仕事に従事し、教育、経済等社会活動に積極的に参加できる機会を確保するための対策を充実すること。

3、痴呆性老人に対する総合的対策の推進をはかること。

## 一三、介護保険制度の円滑な実施

高齢化が著しく進行する我が国において、高齢者介護は現下の最大の課題であり、国、都道府県、市町村が一丸となって取り組むことが何よ

りも重要である。こうした中、介護保険制度が本年四月から施行され、町村においては高齢者に対する必要かつ十分な介護の提供に懸命の努力を傾注しているところである。

しかしながら、今なお解決すべき課題が山積している。同制度を円滑かつ安定的に運営するためには、町村の意見を尊重することはもとより、国、都道府県がその役割を十分に果たすことが必要である。

よって、国は次の事項を実現されたい。

## 1、保険者について

市町村が保険者となっているが、市町村が希望する場合には、公平、公正かつ、より効果的な制度運営のため、都道府県単位の広域連合組織等での運営を推進すること。

## 2、保険料について

(1) 低所得者に対する保険料については、減免措置を講じるとともに、同措置にかかる国、都道府県による財政補填制度を創設すること。

また、保険者の責に帰さない事由により高額な保険料となる場合については、実態に即した適切な措置を講じること。

(2) 事務の効率化のため、第一号保険料にかかる特別徴収の対象範囲を拡大すること。

(3) 介護保険料の上乗せ賦課に伴う、国民健康保険の収納低下により生じる歳入欠陥については、全額国費により補填すること。

3、財政調整について

整財源とされているが、調整財源については二五％の外枠とし、必要額を措置すること。

(2) 財政安定化基金にかかる財源は、国及び都道府県の負担とするこ

## 4、要介護認定について

(1) 公平、公正な認定を確実なものとするため、都道府県の責任において審査基準や不服に対する統一見解の提示及び連絡調整を行う本部ならびに生活圏域を単位として審査判定を行う支部を設置すること。

(2) 認定審査会委員の研修及び訪問調査員等の研修を充実すること。

(3) 認定審査会委員報酬及び調査業務委託料については、実勢に応じた基準額を設定すること。

(4) 一次判定に用いるコンピュータソフトの精度向上をはかるとともに、痴呆症状の実態に即したソフト開発を行うこと。

## 5、介護報酬について

介護報酬の特別地域加算に係る影響額については、利用者負担を含め財政措置を講じること。

## 6、利用者負担について

低所得者に対する利用料負担については、減免措置を講じるとともに、同措置にかかる国、都道府県による財政補填制度を創設すること。

7、家族介護に対する評価について

(1) 町村においては家族介護に依存する度合いが高いという現状に鑑み、現金給付の制度化を含め、支援策を充実すること。

(2) 同居家族に対する訪問介護に係



活 動

る基準について、時間規制の二分の一要件は削除すること。

8、サービス提供事業等については

(1) 市町村において行う苦情処理事務については、円滑に処理できるよう支援体制を強化するとともに、十分な財政措置を講じること。

(2) 市町村特別給付については、法律、政省令等によって関与しないこと。

9、介護基盤の整備について

(1) 市町村介護保険事業計画に基づき、介護サービスが適切に提供できるように、介護基盤整備については、人材の育成・確保等にかかる支援策を含め十分な財政措置を講じること。

(2) 介護療養型医療施設の入所定員数が、市町村の保険料水準に及ぼす影響が大きいことに鑑み、都道府県が行う同医療施設の指定にあたっては、市町村介護保険事業計画が十分反映されるよう措置すること。

(3) 介護支援専門員の地域的偏在等についての対応策を講じるとともに、研修を充実すること。

10、事務費について

市町村における介護保険の事務の執行については、十分な財政措置を講じること。

11、その他

(1) 養護老人ホーム等の施設入所者に対して、住所地特例を適用すること。

(2) 介護保険制度に関する国民の理解と協力を得るため、的確な広報を行うこと。

(3) 第一号保険料の算定にあたっては、税情報等が必要となるため、関係法令において情報提供が可能となるよう対処すること。

一四、地域保健医療対策の推進

急速な高齢化の進展、慢性疾患の増加等による疾病構造の変化、保健サービスに対する地域住民のニーズの高度化や多様化等に対処するため、総合的な地域保健医療対策を推進することが必要である。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、地域保健の充実

(1) 母子保健事業が円滑に実施できるよう財政措置を充実すること。

(2) 予防接種が集団接種から個別接種になったことに伴うワクチン代の高騰に対処し、予防接種事業にかかる財政措置を充実すること。

(3) 保健婦、助産婦、栄養士等の養成、確保をはかるとともに、地域の実情に応じて配置できるよう財政措置を充実すること。

(4) 市町村保健センターの運営及び施設整備にかかる財政措置を充実すること。

2、地域医療体制の充実

(1) 自治体病院の経営健全化対策及び施設整備にかかる財政措置を充実すること。

(2) 看護職員の養成、確保をはかるとともに、財政措置を充実すること。

(3) 国立病院・療養所の統廃合、経営移譲等については、地域の医療に

支障をきたさないよう地元町村と十分協議すること。

3、「第九次へき地保健医療計画」を策定するとともに、へき地診療所の運営、医師及び看護婦の確保ならびに施設整備等にかかる財政措置を充実すること。

4、救急医療体制の体系的な整備を推進するとともに、救急医療情報センターにかかる財政措置を充実すること。

一五、国民健康保険制度の抜本的な改革の実現

国民健康保険制度は、被用者保険に比べ低所得者層が多く、さらに老人加入率が高い等その構造的な体質のため、財政的に脆弱であるうえに、医療費の増高等により保険料(税)の負担及び一般会計からの繰入れはすでに限界に達しており、永年に亘る負担により、町村における各種福祉施策の推進を大きく阻害している。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、各種医療保険制度間における負担と給付の公平化をはかるとともに、医療保険制度の一本化を早急に実現すること。

また、一本化にあたっては、国、地方団体、民間等の役割分担を明確にし、保健、医療、福祉の諸制度が相互に連携し合い、一貫した運用ができる制度を確立すること。

なお、一本化が実現するまでの間、制度の維持運営に支障をきたさ

ないよう、国庫負担の拡充等十分な財政措置を講じること。

2、慢性期医療等に対する包括払いの積極的な活用等診療報酬制度を見直すとともに、薬価基準制度を抜本的に改正すること。

3、国保財政の健全化及び保険料(税)負担の平準化に資するため、新たな国庫負担措置を講じること。

一六、新農業基本法に基づく新たな地域農政の推進

わが国の農業・農村は過疎化・高齢化の進展による担い手の減少、耕作放棄地の増加また、国際化の一層の進展等大変厳しい状況にある。このような状況において、食料・農業・農村基本法およびそれを具体化

信託のある暮らし、あなたに。

1ヵ月たてば毎日が満期 信託貯蓄の決定版

**ヒット&ビッグ**

**NTB 日本信託銀行**

本 店 〒103-0027 中央区日本橋3-1-8 TEL(03)3245-8111  
 新橋支店 〒105-0004 港区新橋2-2-9 TEL(03)3591-1106

## 活 動

する食料・農業・農村基本計画に即し、来るべき二一世紀において安定した足腰の強い農業および農山村の構築を早急に実現する必要がある。よって、国は次の事項を実現されたい。

## 1、食料自給率目標の達成

二一世紀において、国民に安全性の高い食料を安定的に確保するためには、近年の自給率の低下傾向に歯止めをかけ、主要先進国の中で最も低い水準にある自給率の向上をはかることが必要である。したがって、「食料・農業・農村基本計画」において示された食料自給率の目標を確実に達成するため国内農業生産振興対策を抜本的に強化するとともに食料消費については、食品の廃棄や食べ残しの削減等食生活の見直しについて周知・普及をはかること。

## 2、国内農業生産体制の強化と国産米の消費拡大

(1) 水田を中心とした土地利用型農業の推進

米の需給事情を的確に反映した計画的生産の徹底および麦・大豆・飼料作物等の本格的生産の定着・拡大に向けて水田を中心とした土地利用型農業活性化対策の推進に当たっては、地域の実情に即した取り組みを推進すること。

また、作付け面積を早期に提示するとともに作付け面積の配分、確認、助成金の交付等に係る町村の事務について町村の負担が過重にならないよう簡素化すること。なお、経営確立助成金の早期支払い制度を確

立すること。

## (2) 農業生産総合対策の推進

自給率の低い麦、大豆等の重点的な生産振興のため、排水対策等圃場の改良整備など総合的・作物横断的な生産対策を推進するとともに各地域の実情に応じた地域特産作物の振興、開発を行うこと。

また、園芸産地の活性化をはかるため産地の実態にあつた野菜生産省力機械の開発普及を促進すること。

なお、生産資材費の軽減をはかるため農業機械・施設リース事業を拡大すること。

## (3) 畜産振興総合対策の推進

酪農および肉用牛経営の安定と健全な発展をはかるため家畜排せつ物の処理の促進、肉用子牛等対策の強化等の畜産振興総合対策を推進すること。特に、口蹄疫等畜産に係る海外伝染病の国内侵入・まん延防止対策等の防疫対策および国産稲わら供給体制の一層の強化をはかること。

## (4) 国産米の消費拡大

世界的な食料・環境問題が懸念されるなか、米を中心とした日本型食生活の再構築をめざすとともに農村地域の活性化につながる新たな米消費拡大策の拡充強化をはかること。

また、日本の食文化を守り育てていくため米飯を主体とする学校給食制度を確立し、学校給食用米穀の確保のための施策の創設と必要な財源の確保をはかること。

## 3、WTO農業交渉への対応

WTO農業交渉に当たっては、農業の有する多面的機能や食料安全保

障の重要性に配慮した新たな国際ルールを実現するとともに国内の農業経営に支障の生じる恐れのある関税の引き下げ等を行わないこと。

また、関税化に移行した米については、稲作農家の経営に影響のないよう現行の関税水準の維持に努めるとともに食料不足の諸外国への援助用に積極的に活用すること。

## 4、地域農業の体質強化

(1) 地域農業の担い手の育成・確保  
意欲ある担い手の確保・育成と新規参入を促進するため農業就業者の所得の確保、社会保障、年金等身分保障制度を確立すること。特に、安定した農業者年金制度は、若い担い手の確保の面から重要であるため農業者が安心して加入できる制度とすること。

また、認定農業者への支援を資金面、技術面から強化するとともに女性の農業経営に参画する機会の確保と高齢農業者が生きがいを持って農業活動を行うことができる環境の整備、集落営農に対する支援を強化すること。

## (2) 農業基盤整備の推進と土地改良負担金の軽減

生産性の高い地域農業を確立するため、農業基盤整備の推進および土地改良負担金の農家負担の一層の軽減をはかるとともに、受益者負担のない場合は土地改良法に基づく同意を要しないよう法手続きを簡素化すること。

また、土地改良事業に係る施設および広域営農団地農道の維持管理費

の助成を拡充するとともに、国営かんがい排水事業により建設された施設は国が管理すること。

## (3) 優良農地の確保

「食料・農業・農村基本計画」で示された食料自給率の達成に向け、必要な優良農地の確保と有効利用を積極的に推進するとともに地域農業の安定のため株式会社の農地取得に当たっては、土地投機等が行われないうような十分な措置を講じること。

なお、地域の実態に応じた土地利用をはかるため農業委員会の見直しを進めるとともに地域の土地利用計画の策定等に係る町村長の権限を強化すること。

また、農業振興地域整備計画の変更については、地域の実情に応じた柔軟な対応が可能となるよう規制を緩和すること。

(4) 農林地の保全・管理対策の強化  
耕作放棄農地や放置森林等の増加傾向に対処するため、中長期的視点に立つて以下の措置を講じること。

ア、耕作放棄農地、放置森林等の維持管理等を行う町村、公社、第三セクターへの経費助成の拡充

イ、相続に伴う農林地の粗放化、細分化防止のための特例措置として耕作及び管理できないものについては、町村又は農協等が買取り管理する制度の創設

ウ、農地保有合理化法人が農地を取得し、新規参入者や大幅な規模拡大をめざす者に超長期間の貸付けを行う制度の創設

エ、農業公社、関係法人等の設立

活 動

並びに耕作農地確保の場合の事務手続きの簡素化

(5) 農業経営安定対策の充実

ア、米・麦・野菜等の農畜産物価格安定制度については、市場原理を重視した価格政策への見直しが進められているが、大幅に価格が下落した場合に農業経営に大きな影響を及ぼさないよう所得確保対策および経営安定対策等の施策を拡充すること。

イ、米の政府買入価格は、地域農業の安定をはかるため地域の生産条件を充分反映したものとすること。

5、農山村地域活性化対策の拡充と生活文化環境等の整備

(1) 農山村地域活性化対策の総合的推進

自然的、経済的に不利な条件下にある農山村地域において若者が定住する条件を整備するためには、農業を基幹産業とした多様な産業の総合的振興等就業、所得機会の拡大をはかる施策の実施とともに都市と比べて立ち遅れている農山村の道路、集落排水施設、情報関連施設、福祉施設等生活文化環境の整備を促進すること。

(2) 中山間地域等直接支払い制度の円滑な推進

中山間地域等直接支払制度の円滑な推進のため交付金単価を確保するとともに地域指定、集落協定の承認、対象行為の確認等に係わる町村の事務をできるだけ簡素化し、地元町村に過重な負担がかからないようにすること。また、都市住民を含め

国民の理解と協力が不可欠であるから中山間の果たしている多面的機能の周知をはかること。

(3) 農山村と都市との交流の推進

農山村地域の活性化や都市と農山村の共生をはかるグリーンツーリズムの一層の推進をはかること。

(4) 地方財政措置の拡充

地域の自主性・創意工夫を活かすつつ、地域の活性化をはかるため、「農山漁村関連施策」および「国土保全対策」を拡充すること。

6、地域食品産業振興対策の充実と食品流通の構造改革の推進

(1) 地域食品産業振興対策の充実

ア、多様な消費者ニーズに対応し、地場食品加工産業の育成とふるさと食品の高付加価値化、販路の拡大等をはかること。

イ、農村地域に立地している農林水産関係加工産業は規模が小さく経営が不安定であるので、その体質強化、経営の安定等をはかるための施策を充実すること。

(2) 食品流通の効率化と安全性の確保

ア、輸送技術、貯蔵技術の改善等による、低コスト・省力化等食品流通の構造改善対策を積極的に推進すること。

イ、消費者の適正な商品選択、安全性への関心の高まり等に資するため、原産地表示、有機食品の検査認証制度の導入等食品の表示制度の充実強化をはかること。さらに、遺伝子組み替え食品の表示について消費者が不安を抱くことのないよう適切

な実施をはかること。

7、農業技術の開発と普及等

生産性の向上や経営体質の強化等をはかるため地域の特性に応じた農業に関する研究および普及並びに消費者ニーズに応じた新しい食品の加工および開発に関する研究を推進すること。特に、遺伝子組み替え技術を活用して生産した農畜産物については、環境への影響や安全性の確保に十分配慮すること。

一七、森林・林業対策の推進

わが国の森林・林業を取り巻く環境は、木材価格の低迷、林業従事者の減少等厳しい情勢にあり、山村では過疎化・高齢化が進行している。町村は地域森林の維持管理において、大きな役割を担うこととなったが、森林の多面的・公益的機能の維持には適切な森林経営の確保、山村の活性化が肝要である。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、新たな林業基本法の制定

近年、森林・林業に対する国民の要請、森林資源の状況、木材の需要構造等において、昭和三十九年の林業基本法制定時と大きな変化が生じているため、森林を社会全体で支えるという理念のもとに、現行の林業政策の見直しを行い、国土保全、水資源かん養等公益的機能の持続的発揮、安定した森林の管理・経営システムの構築を目指す新たな林業基本法を制定すること。

2、林産物の特性に配慮した貿易ル

ールの確立

林産物に関するWTO交渉においては、地球環境の維持、森林資源の持続的利用の観点から輸出国、輸入国双方の林業・木材産業の健全な発展を目指すとともに、関税の引き下げ等により国内林業の採算性がこれ以上低下することのないよう配慮すること。

3、地域における適切な森林管理対策の拡充と森林基盤整備の推進

(1) 「市町村森林整備計画」を円滑に推進するため、要員の確保を含め町村への財政措置を拡充すること。

(2) 担い手対策、公有林化、上下流連携による森林整備、地域材の利用等を一層促進するため、「森林・山村対策」、「国土保全対策」を強化すること。

(3) 町村における森林・林業行政の充実をはかるため、地方交付税において測定単位を森林面積とする「森林・林業行政費」を新設すること。また、投資的経費の補正要素に「林道延長」を加味すること。

(4) 採算性の低下、路網整備の遅れ等で間伐が実施されていない森林を対象とする「緊急間伐五力年対策」を着実に実施し、森林の機能回復、間伐材の利用を促進すること。

(5) 野生鳥獣と人間の共生を基本とした鳥獣被害防除対策を確立するとともに、松くい虫等の森林病害虫防除制度を強化すること。

(6) 林業の活性化と地域の振興をはかるため、森林の保全整備、環境整備を推進すること。また、木材関連

活 動

産業の基盤整備を促進し、大規模林業園開発林道事業を推進すること。

(7) 林道等の新設・改良を行う場合の財政措置を拡充するとともに、用地費については一般道路に準じた扱いとすること。なお、作業路の開設事業については多額の経費を必要とするので、一般林道に準ずる助成措置を講じるとともに、災害復旧に係る補助制度を検討すること。

(8) 国民参加の森林や緑をまもる運動を推進するため、緑化推進事業、ボランティア活動を支援すること。

(9) 相続による森林保有の細分化、世代交代による境界の不明確化等により放置森林の拡大が懸念されるため、町村、第三セクター、森林組合等による管理を推進すること。また、森林の公益的機能を考慮し、相続税等の軽減をはかること。

4、担い手の育成と経営改善

(1) 林業労働力の確保・育成をはかるため、「林業労働力の確保の促進に関する法律」の適切な運用に努めるとともに、通年雇用制度の確立、他産業従事者並みの所得の確保、社会保障制度の整備、研修制度等の充実をはかること。

(2) 地域林業の中心的担い手である森林組合を強化するため、広域合併、組織・経営基盤強化の条件を整備するとともに、森林組合作業班の機能の充実と体質の強化をはかる措置を講じること。

また、生産森林組合が分収林契約に基づく分収金を組合員に分配した場合、法人税の所得の計算上、従事

割配当と同様損金算入を認めること。

(3) 持続的な林業経営の確立に向けて、林業経営の集約化、担い手の確保・育成、特用林産の振興等をはかる地域林業の構造改善を推進するとともに、町村が主体となつて行う関係者の合意形成、情報収集等の活動に対する支援を拡充すること。

(4) 農林漁業金融公庫資金、林業改善資金、木材産業高度化推進資金の貸付枠の確保、貸付条件の改善を行うこと。

5、木材の安定供給と需要の拡大

(1) 木材の拠点的加工・流通施設等を整備し、流域一体となった原木の安定的供給体制の推進、木材産業の体質強化をはかること。また、国産材素材価格の安定をはかるための対策を講じること。

(2) 公共建物、公共土木事業、住宅建設における国産材の利用促進をはかるため、国産材を利用した場合の税制・金融上の優遇措置を拡充すること。また、木材利用に関する情報提供、PR活動を推進すること。

(3) 建築基準法の改正、住宅の品質確保の促進等に関する法律の制定に伴い、より良質で安定した木材製品の供給が求められているため、それに対応する木材の乾燥の促進等に対する支援を強化すること。また、集材等の高次加工技術の研究開発について、新たな視点から早急に取り組むこと。

6、中山間地域対策の推進

(1) 中山間地域においては林業と農

業が一体となつて国土保全、自然環境の維持等の役割を果たしていることを踏まえ、森林・林業の分野においても林業の特性を踏まえた直接支払制度の導入を検討すること。

(2) 山村と都市との交流活動・施設等の充実により、双方の住民にとつて、森林・山村が活力と魅力ある地域となる施策を推進すること。

7、国有林野所在町村に対する森林管理対策の充実

国有林野事業の改革に伴う組織・要員の合理化等により、森林の維持管理が低下することのないよう適切な森林整備を行うこと。また、国有林、民有林一体の管理体制を強化するため、流域管理システムに対する支援措置を拡充すること。

一八、水産業対策の充実

わが国の水産業をめぐる環境は、周辺水域における水産資源の低迷や漁業生産の担い手の減少、高齢化の進行、さらには漁村の活力の低下等極めて厳しい状況にある。このような状況に的確に対処し、水産業の一層の振興と活力ある漁村の形成をはかるためには、水産業対策をさらに充実する必要がある。

よつて、国は次の事項を実現されたい。

1、水産基本法の制定

新しい海洋秩序時代を迎えたわが国の水産政策について抜本的に見直し、水産資源の適切な管理と持続的利用を基本としつつ、水産物の安定供給や地域振興等を含めた政策全般

を再構築することが必要である。このため、今後の水産基本政策の理念と施策の方向を明らかにした水産基本法を速やかに制定するとともに、改革に向けた施策の具体化に努めること。

2、水産資源の適切な管理に配慮した貿易ルールの確立

水産物に関するWTO交渉においては、各国がそれぞれ自国の水産資源を適切に管理することを前提とする貿易ルールの確立を目指すとともに、わが国の水産業の安定と発展に支障が生じることのないよう、関税の引き下げ、非関税措置の撤廃が行われることのないよう努めること。

3、漁業経営対策の強化と漁業就業者の確保・育成

あなたの思いをカタチにします。

- ヒ ッ ト
- ト リ グ ル
- ビ ッ グ 2年・5年
- ス ー パ ー 定 期
- カ ー ド ロ ー ン ・ 住 宅 ロ ー ン
- 不 動 産

住友信託銀行

資料をご希望の方は、電話でご請求ください。テレホンバンクセンター ☎0120-780-890 音声ガイドにしたがってお客様サービス ☎資料のご請求 ☑を押してください。オペレータが資料請求をうけたまわります。受付時間(銀行休業日を除く)月～金曜日

活 動

(1) 漁獲可能量(TAC)制度の導入等漁業をめぐる情勢の著しい変化にかんがみ、漁業活動に関する諸規制について、経営の安定と発展に資するよう緩和をはかること。

また、資源回復措置の一環として減船や休漁等が実施される場合は、関係漁業者の漁業経営に大きな影響を及ぼすことのないよう十分な対策を講じること。

(2) 水産物の供給を将来にわたって安定的に担い得る体制の確立をはかるため、意欲と能力のある経営体の育成に努めるとともに、これらの経営体を総合的に支援するための施策を講じること。

また、新たな漁業就業者や後継者の確保を推進するため、生産手段取得への支援や労働条件改善の促進等施策の充実をはかること。

(3) 漁協が経済的に自立し、地域における中核的組織として指導的役割を担うことができるよう、合併や事業統合を促進するとともに、漁協の事業および組織の合理化等について指導すること。

(4) 漁業災害補償制度は、漁業および漁業者ニーズの変化に即して、適切かつ効率的な運営に努めること。

4、資源管理対策の強化と操業秩序の確立

(1) わが国周辺水域の資源回復と持続的利用をはかるため、広域的な資源管理体制を確立するとともに、計画的な資源回復措置を速やかに講じること。

(2) 新しい日韓および日中の漁業協

定に基づく操業条件が、わが国の水産資源および漁業者に悪影響を及ぼすことのないように努めるとともに、協定水域全域における操業秩序の確立をはかること。

5、つくり育てる漁業の推進と内水面漁業の振興

(1) わが国周辺水域における水産資源の回復・増大をはかるため、種苗放流数量の増大等栽培漁業の積極的な事業展開をはかるとともに、環境に配慮し、需要的に確に対応した養殖の推進等、養殖業にかかる施策の充実・強化に努めること。

(2) 内水面漁業・養殖業の一層の振興と内水面地域の活性化をはかるため漁協による漁場管理のあり方を検討するとともに、外来魚および疾病対策に配慮しつつ地域の実態に即した増殖事業を推進すること。

6、水産物の流通・加工・消費対策の強化

(1) 水産物流通の効率化をはかるため、産地市場の統合等産地市場機能の強化をはかるとともに、中小・零細企業が大部分を占める水産加工業の経営体質の強化に努めること。

(2) 水産物の安全性と品質の維持を確保するため、HACCP(危害分析・重要管理点)方式の導入を推進し、衛生的・効率的な水産物供給システムを確立すること。

(3) 消費者の適切な消費行動に資するため、消費者に対し、引き続き食生活に関連する情報を提供するとともに、魚食の普及に努めること。

7、漁業地域の活性化と水産基盤整

備の推進

(1) 漁業地域の活性化をはかるため、地域の定住環境の整備・改善を推進するとともに、都市との交流をはかる諸事業を推進して収益機会の増大をはかるよう支援すること。

また、沿岸漁業の構造改善を推進し、新たな時代のニーズに即応した漁村の振興に努めること。

(2) 水産基盤整備を効率的、効果的に実施するため、漁場と漁港を一体的かつ計画的に実施するとともに、漁村の総合的振興に資するための整備を推進すること。

また、漁業集落排水施設の整備について、都道府県による代行制度を創設すること。

(3) 高潮災害を防止するため、高潮予測情報の充実や避難場所の確保等総合的な高潮防災対策を速やかに実施すること。

8、漁場・沿岸環境保全対策の推進

(1) 漁場環境および生態系の保全をはかるため、これらの実態の把握に努めるとともに、藻場・干潟の再生・造成、水質の改善等を行うこと。

(2) 漁業系廃棄物の処理・再利用システムおよび赤潮・貝毒による漁業被害防止等に関する技術開発等、水産関係の環境問題全般についての対策を早急に確立すること。

(3) 海浜および漁場の美化を総合的に推進する施策の充実をはかるとともに、町村の海浜清掃等環境美化運動に対し積極的に支援すること。

(4) 油流出事故による漁場・海岸の汚染に即応できる油濁被害防止対策

を引き続き推進すること。

9、海外漁場の確保等

(1) わが国周辺水域からのみでは不足する漁業生産を補完するため、強力な漁業外交を展開する等して、海外における遠洋漁業の漁場の確保に努めること。

(2) 科学的根拠に基づいた鯨類資源の合理的利用をはかるため、捕鯨業の早期再開に向けて努力すること。

10、技術開発の推進と試験研究の強化

水産各分野の持続的発展をはかる上で不可欠な技術開発および試験研究については、重点的、効率的な推進をはかるとともに、試験研究機関の独立法人化後においても、都道府県、民間等との連携を強化して、開発研究体制の充実強化に努めること。

11、漁村地域に対する財政措置の拡充沿岸、離島、半島等に立地している漁村は、地理的、社会的、経済的条件に恵まれない条件不利地域であり、総じて財政基盤が脆弱な町村が多い。

このような町村が漁業の振興、漁村の活性化を自主的、主体的に推進するためには、財政基盤を強化する必要があるため、農山漁村対策に係る財政措置を拡充すること。

一九、地域商工業振興対策の推進

農山漁村地域における農林水産業と商工業の均衡ある発展および雇用の確保に資するため、地域産業の育

活 動

成ならびに企業誘致の推進をはかる必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、工業等の導入促進と地域産業の育成

(1) 多様な就業機会の確保を積極的に推進するため、産業再配置に対する各種施策の充実をはかるとともに、むらおこし事業等により地域のもつ資源や技術を活用した地域産業の育成をはかること。

(2) 農村地域工業等導入基本法に基づく第八次農村地域工業等導入基本方針の策定に当たっては、農村地域の実情を十分考慮し、実効性のあるものとする。

2、地元商工業対策の強化

(1) 地元中小小売店の振興をはかるとともに、空洞化が深刻化している町村の中心市街地を活性化させるため、商業基盤設備や商業施設の整備等の対策を拡充すること。

また、地元商工業の振興をはかるため、創業支援、新商品開発等の施策を強化すること。

(2) 中小企業の資金需要に円滑に対応できるよう政府系中小企業金融機関については、貸付規模の確保と貸付条件の改善をはかること。

また、貸し渋りにより資金繰りが悪化している中小企業の資金調達の円滑化をはかるため、中小企業の信用補完制度の拡充等貸し渋り対策を拡充強化すること。

二一〇、生活環境の整備促進

国民が真に豊かさを実感できる住みやすい地域社会をつくるため、生活環境の整備対策を強力に実施する必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、水道施設の整備促進

(1) 上水道施設、簡易水道施設の整備にかかる財政措置を充実すること。

(2) 高料金水道に対する財政措置を充実すること。

2、排水処理施設の整備促進

(1) 第八次下水道整備七箇年計画の着実な実施をはかるとともに、著しく整備が立ち遅れている町村の下水道整備を重点的に推進するとともに、下水道整備にかかる財政措置を充実すること。

(普及率全国ベース五八%、町村部二〇%)

(2) 農業集落排水事業、漁業集落環境整備事業については、町村が必要とする事業量を確保するとともに、財政措置を充実すること。

(3) 合併処理浄化槽設置整備事業については、町村が必要とする事業量を確保するとともに、財政措置の充実をはかること。

(4) 各種排水処理事業において、処理施設への相互接続の弾力化、水質検査項目等の統一をはかる等、排水処理事業の効率的、一体的な整備を行えるようにすること。

3、廃棄物処理対策の改善強化

(1) 第八次廃棄物処理施設整備七箇年計画の着実な実施をはかるととも

に、著しく整備が立ち遅れている町村の廃棄物処理施設および焼却灰溶融化施設整備を重点的に推進すること。

(2) 有毒な新素材の使用を禁止し、廃タイヤ等処理困難な物品の処理については、製造、販売業者の監督を強化するとともに、処理体制を確立すること。

(3) 産業廃棄物処理施設等の周辺地域に対する環境整備対策を検討すること。

(4) 根本的なごみの減量化を図るため、環境保全を基本理念とした国民に対する教育を確立すること。

4、健全な循環型社会の構築

(1) 国・地方公共団体・製造業者の責任を法制化するとともに特に、製造事業者が製品のリサイクル性の向上や廃棄物の量の削減に取り組むよう強力に指導を行うこと。

(2) 低コストのリサイクル技術の開発、リサイクル製品の流通体制の確立と需要の拡大等総合的な廃棄物再生利用対策を強力に推進すること。

(3) 「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」へ容器包装リサイクル法の運用にあたっては、ストックヤード等施設整備および収集・運搬にかかる必要経費について財政支援措置を充実するなど町村が積極的に取組めるよう配慮すること。

(4) 「特定家庭用機器再商品化法」(家電リサイクル法)の本格施行にあたっては、町村の実情を十分勘案し、町村に過重な財政負担が生じる

ことのないよう考慮すること。また、指定引き取り場所と再商品化費用の早期明確化をはかること。

5、ダイオキシン類の対策強化

(1) ダイオキシン類の発生を未然に防止するため廃棄物処理にかかる抜本的な対策を推進すること。特に、小規模施設における発生防止技術を確立するとともに、廃棄物焼却施設における焼却灰や周辺土壌の無害化処理技術の開発等、試験研究を拡充強化すること。

(2) 一般廃棄物処理施設のダイオキシン類の排出削減対策および環境影響等の実態調査にかかる財政措置を充実すること。特に、既存施設の平成十四年対応に向けた改造等については、緊急対応として十分な財政措置を講ずること。

(3) RDFの燃料としての利用促進のため、その規格および安全基準の明確化等をはかるとともに、財政措置を拡充すること。

6、第六次都市公園等整備七箇年計画の着実な実施をはかるとともに、著しく整備が立ち遅れている町村の都市公園整備事業を重点的に推進すること。

7、新たな住宅建設長期計画を策定し、公営住宅の整備促進のための必要な事業量の確保をはかること。

8、火葬場・斎場等の施設整備にかかる財政措置を充実すること。

二二、道路の整備促進

国土の七割強を占める町村を広く国民のふるさととして活性化し、地

活 動

域住民の生活を豊かな潤いのあるものとするため、社会経済活動を支える道路網の整備は重要かつ緊急の課題となっている。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、道路網の整備促進

(1) 道路整備五箇年計画の着実な実施をはかるとともに、整備が著しく立ち遅れている町村道の整備を重点的に推進できるよう配慮すること。

また、道路特定財源については、現行制度を堅持すること。

(道路実延長のうち、八八、三%を占める市町村道の改良率は五〇、〇%、舗装率は一六、四%)

(2) 国道・都道府県道および市町村道の均衡ある道路網の整備を推進するとともに、特定地域の開発のための道路整備を推進すること。

(3) 高規格幹線道路網の整備およびこれに関連する幹線道路の整備を促進すること。

また、高速自動車国道の着実な整備を推進するため、全国料金プール制を堅持するとともに、三%路線の拡大など資金コストの低減等による公的助成の強化をはかると。

2、落石、崩土等の発生を未然に防止するため法面保護、落石防止事業等を積極的に推進するとともに、財政措置を充実すること。

3、第六次特定交通安全施設等整備事業七箇年計画の着実な実施をはかるとともに、歩道等の整備が重点的に推進できるよう配慮すること。

4、里道の譲与について

(1) 里道の譲与に関し、町村が希望するものについては、原則として譲与の対象とすること。

(2) 譲与に要する経費について、十分な財政措置を講じること。

二二、河川等の整備促進

真に豊かな生活を実現するため、治水事業を積極的に推進することが緊急の課題である。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、第九次治水事業七箇年計画の着実な実施をはかるとともに、著しく整備が立ち遅れている準用河川改修等の治水事業を重点的に推進すること。

また、事業の実施に当たっては、生態系の維持に十分配慮すること。

2、第四次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画の着実な実施をはかるとともに、必要な事業量の確保をはかると。

3、第六次海岸事業七箇年計画の着実な実施をはかると。

4、水路の譲与について

(1) 水路等普通河川の譲与に関し、町村が希望するものについては、原則として譲与の対象とすること。

二二、土地政策の確立

土地政策については、有効利用に向けた流れを中長期的に定着することとされているが、豊かで安心できる地域づくりを目指す観点から、土

地基本法の基本理念を踏まえつつ総合的な土地政策を機動的に実施する必要がある。

また、地方公共団体の公共用地の取得が困難な状況には、特に配慮すべきである。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、土地に関する施策を総合的かつ機動的に実施するため、関係省庁間および国・地方を通ずる施策の総合調整をはかると。

また、町村における総合的な土地利用計画の整備がはかれるよう、権限を拡充すること。

2、特定土地区画整理事業および特定住宅地造成事業にかかる公有地提供者(代替地提供者を含む)に対する譲渡所得税の特別控除額を引き上げる。

3、公共事業について、土地収用制度上の事業認定をうけることなく租税特別措置法の特別控除が認められる対象事業の範囲を拡大すること。

4、公共用地の取得の円滑化をはかると、老齢福祉年金受給者が、公共用地として土地を譲渡した場合の所得(限度額一、〇〇〇万円)は、老齢福祉年金支給停止にかかる所得とみなさないこととされているが、この所得制限額を引き上げること。

5、土地開発公社が地方公共団体に代わって、公共用地としての利用を目的として農地を取得する場合には、農地法第四条の転用の制限および同五条の権利移動の制限について、地方公共団体の場合と同様の取

扱いとし、円滑に取得できるように制度を改正すること。

6、新たな国土調査事業十箇年計画の計画的かつ着実な推進をはかると、所要事業量の確保と財政措置を充実するとともに、再調査についても財政措置を講じること。

二四、災害対策の推進

各種の災害から、地域と住民の生命・身体・財産などをまもることは、豊かで住みよい地域社会を形成するため不可欠の政策課題であり、阪神・淡路大震災等の教訓を踏まえ、災害対策の一層の充実をはかる必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

好評です。ピーターラビット通帳。



© Fredrick Warne & Co Ltd. Licensed by Fukukun Shoten

三菱信託銀行

本店 電話03-3212-1211

活 動

- 1、大震災等災害対策の確立
    - (1) 阪神・淡路大震災等の貴重な経験や教訓を踏まえ、災害に対し、迅速かつ的確に対応できるように、国、都道府県、市町村等にわたる総合調整体制の強化を行い、財政措置の充実を含め、災害予防対策、災害応急対策、災害復旧対策を確立するとともに、地震災害に関する資料の収集、保存、展示、防災に関する総合的、実践的な能力を有する人材の育成等の事業の推進をはかること。
    - (2) 電気、水道、ガス等のライフラインの安全性の強化をはかること。
    - (3) 基幹となる交通、通信施設の災害に対する安全性を充分なものとする。
 

また、公共施設等の耐震性、不燃化対策を強化すること。
    - (4) 公園・緑地および緊急輸送道路、特に農道、林道等を整備すること。
    - (5) 貯水槽の整備および井戸の活用による緊急時の生活用水の確保、食料の備蓄および炊き出しのための資材整備について万全の備えを行うこと。
    - (6) 災害等に対応する自主防災組織の育成・強化とその活動が円滑に推進できるように、財政措置の充実および補償制度の確立をはかること。

また、災害ボランティアの育成と活動環境を整備すること。
  - (7) 近年の災害をめぐる状況の変化や、省庁再編に伴う防災体制の再編成を踏まえて、防災基本計画の必要な見直しを行うこと。
- また、防災対策の総合的な充実強化をはかるため、町村が地域防災計画の見直しを行うにあたっては、必要な財政措置を講ずること。
- (8) 地震防災対策特別措置法に基づく地震防災緊急事業計画により実施される地震防災緊急事業に係る国の負担または補助の特例措置の延長をはかるとともに、地震防災緊急事業の円滑な実施のため、所要の財政措置の充実、強化をはかること。
- また、いわゆる地震財特法に基づく地震対策緊急整備事業の推進をはかること。
- 2、地震、津波、噴火、豪雨等、各種災害に対するハード・ソフトを組み合わせた総合的な対策を確立、推進すること。
  - 3、地震予知については、実際に地震が起こった際の被害を軽減するためにも重要であるので、さらに精度を高めるための調査研究を推進すること。
  - 4、非常時における情報通信システムの整備、確立、強化を推進すること。
  - 5、第四次急傾斜地崩壊対策事業を計画的に推進するとともに、現行採択基準を緩和し、町村の急傾斜地崩壊危険箇所をすみやかに解消すること。
- また、雪崩災害対策事業の早期実施をはかるとともに、砂防、地すべり等土砂災害対策を推進すること。
- 6、治山治水事業および海岸事業を積極的に推進するとともに、特に火山地域の防災対策に万全を期するた

# 建設工事保険

## 旅行傷害保険

### 自治会活動保険

#### 各種損害保険・生命保険

全国町村会総合賠償補償保険制度  
 全国町村会特定疾病保険制度  
 ----- 取扱い代理店 -----

株式会社 千 里

(引受保険会社) 損 保 = 損害保険会社22社

生 保 = アリコ・ジャパン

本社 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内 ☎ 03-5512-4726(代)

福島 024( 558 )2980	長野 026( 285 )4764	岡山 086( 245 )4833	佐賀 095( 29 )3145
営業所(全国27か所) 千葉 043( 227 )2328	岐阜 058( 73 )2761	広島 082( 844 )1067	長崎 095( 823 )9583
東京 042( 91 )6609	愛知 056( 81 )2072	山口 083( 928 )7886	熊本 096( 359 )1766
北海道 011( 272 )8677	三重 059( 223 )2808	徳島 088( 624 )1603	宮崎 098( 32 )2789
青森 017( 38 )2915	奈良 074( 29 )8281	愛媛 089( 924 )6151	鹿児島 099( 206 )1019
宮城 022( 275 )0891	島根 085( 37 )2163	福岡 092( 632 )9714	沖縄 098( 862 )2627



活 動

め、土石流対策として火山砂防事業および防災対策総合治水事業等を実施、推進すること。  
7、災害救助その他応急対策等の充実

(1) 災害救助法の救助基準の改善と迅速な適用および災害救助用のヘリコプター・ヘリポートの整備等、応急対策の充実をはかること。

(2) 地震、風水害等により甚大な被害を蒙った地域の早期復旧を図るため、激甚災害の早期指定に努めるとともに、激甚災害対策特別緊急事業を積極的に推進すること。

また、天災融資法の適用基準を緩和すること。

(3) 海難・水難および山岳遭難等の救助活動にもなつ町村の費用負担に対する財政措置を充実すること。

(4) 災害弔慰金の支給および災害援護資金の貸付けの限度額等の引上げをはかること。

8、改良復旧方式を積極的に採用するとともに、復旧事業の対象の拡大をはかるなど、再度災害、連年災害に対する総合的対策を確立すること。

特に、災害関連緊急事業については、その弾力的運用により再度災害防止対策の拡充をはかること。

9、町村が自主的に実施できる防災まちづくり事業にかかる地方債および地方交付税措置の充実をはかること。

また、自然災害防止事業債を拡充すること。

二五、町村消防の充実強化

社会経済情勢の変化等により複雑多様化、大規模化する火災、地震、風水害等災害に対応し、地域住民の安全を確保するため、消防力の充実、大規模災害対策の推進等をはかるとともに、救急に対する国民のニーズの高まりに対応する救急業務の一層の充実をはかる必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。  
1、消防施設の整備  
(1) 消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車等消防施設の整備にかかる財政措置を充実すること。

(2) 過疎、へき地、山村、豪雪、離島および半島等の地域について消防施設を充実すること。  
2、大規模災害対策等の推進  
(1) 広域のかつ機動的な消防防災活動の実施体制を整備するためヘリコプターの計画的配置を推進すること。

(2) 防災行政無線網の整備を推進すること。  
(3) 林野火災に対する総合的対策の推進をはかること。  
(4) 自然水利用遠距離送水システム等、消防水利用多様化推進事業にかかる財政措置を充実すること。

3、高規格格急自動車、高度救命処置用資機材等の整備にかかる財政措置を充実するとともに、救急隊員に対する教育訓練を充実すること。  
4、消防団の活性化をはかるため、施設整備および教育訓練等の充実をはかること。

二六、戸籍制度等の抜本的な見直し

戸籍事務については、近年住民の流動が激しく、町村に本籍と現住所双方を有する者、又は、いずれか一方が町村外にある者等に分かれており、事務が煩雑になっている。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、本籍と現住所を一本化した戸籍制度にするなど、現行の戸籍制度の抜本的見直しを行うこと。  
2、戸籍事務についての電算化にあたっては、十分な財政措置を講じること。  
3、住民基本台帳ネットワークシステムの整備にあたっては、個人情報保護に十分配慮の上、市町村の事務負担の軽減、情報化の推進に資するものとなるよう留意するとともに、導入費用および運営経費に対する必要な財政措置を講じること。

二七、非常勤職員等の雇用の新たな対応

高齢社会の到来等により多様化している行政サービスを提供するため、ホームヘルパー等の非常勤職員および臨時職員の活用が不可欠になっている。

よって、国は時代に適合した新たな非常勤職員・臨時職員等の雇用および処遇のあり方について制度を確立すること。

二八、国会議員の選挙等の執行経費の基準の改善

区・市・町村の別により設定されている国会議員の選挙等の執行経費の基準額の算定については、実情を考慮し、引続き所要の改善をはかること。

二九、地域交通対策の推進

交通事業に関する規制緩和に伴い、地域における交通機関の確保が重要な課題となつてきている中、町村は、乗合バス路線、離島航路、離島空路等の住民の日常生活の足として、真に必要な生活交通の確保、および住民生活、地域振興に必要な地域鉄道の整備をはかるための取組を行つていく必要がある。

よって、国は次の事項を実現することで、生活交通の確保方策の確立をはかられたい。

1、需給調整規制廃止に伴う乗合バスの環境整備方策の確立

(1) 生活交通の確保方策として、国が広域的、幹線的なバス路線について、地方公共団体に対して補助を実施する場合、赤字路線を多く抱える町村部の実情にかんがみ、補助対象範囲のさらなる拡充をはかること。

また、町村が行う生活交通確保のための措置の財源についても十分な措置を講じること。

(2) 地域協議会における協議結果については、地域の足をどう確保していくかということについて、都道府

県をはじめ、国・関係地方公共団

## 活 動

体・事業者等の協議、合意に基づいて講じられていることから、その取扱いについて、生活交通の確保方策の確立のためにも最大限尊重されるようにすること。

(3) 制度の円滑な実施をはかるため、その実施までに一定の移行期間を設けるとともに、地域協議会を先行して発足させるなど、所要の措置を講じること。

2、地方バスは地域における生活の足として重要な役割を果たしているので、存続、確保をはかるとともに、現行の地方バス路線維持対策等を充実強化するなど、財政措置を充実すること。

3、離島航路は、島外等と結ぶ基幹の交通機関であり、極めて重要であるので、財政措置を強化すること。

また、離島航空路線は、離島振興のため不可欠の交通機関となっているので、「離島空路整備法」(仮称)の制定などにより、離島航空路線の維持、安定をはかること。

4、第三セクター鉄道等の健全な運営を確保するため、鉄道軌道整備費等補助にかかる助成措置を拡充すること。

5、バリアフリー関係事業については、その計画の推進にあたり、町村の意向を十分反映するとともに、事業の実施にあたっては、財源対策等、必要な支援措置を講じること。

## 三〇、エネルギー対策の推進

最近のエネルギー需要の増大、わ

が国の脆弱なエネルギー供給構造、さら

には地球温暖化をはじめとする地球環境問題を踏まえ、中長期的観点から新エネルギー・省エネルギーの推進、石油代替エネルギーの開発・導入に係る対策など総合的なエネルギー対策を推進する必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、新エネルギーの開発・導入の推進

エネルギーセキュリティの確保、二酸化炭素抑制対策等環境問題への積極的な対応をはかるため、燃料電池、太陽光発電等の新エネルギー技術の実用化に向けた開発を推進するとともに、地域における風力発電、廃棄物発電および波力発電等新エネルギーの導入に向けた先進的な取組等を行う地方公共団体に対する財政支援を拡充すること。

2、原子力利用の安全対策の強化

原子力関連施設所在町村の住民の安全を確保するため、原子力関連施設に対する指導監督責任を明確にし、安全規制の抜本的強化、保安管理態勢の確立、事故発生時の迅速な情報提供、防災資機材の整備等について一層推進すること。

なお、原子力発電については、地元住民の理解を得て、推進すること。

3、省エネルギー対策の強化長期エネルギー需給見通しの実現と環境と調和したエネルギー需給構造の構築に向けて、省エネルギー技術開発を

## 21世紀の火葬炉

発明協会賞受賞

科学技術庁長官賞受賞



香川県 三木・長尾葬斎組合葬斎場 しずかの里

富士建設工業(株)

本社：新潟市 ☎(代表) 025(255)4161

活 動

促進するため、産・官・学を一体化した協力体制を強化し、エネルギー有効利用、未利用エネルギーの開発、省エネルギー設備投資に対する金融、税制面の支援措置を強化するとともに、先進的省エネ設備を導入する地方公共団体に対する財政支援を強化すること。

4、石油の安定供給対策の推進石油の安定供給の確保を基本として、エネルギーセキュリティ確保のため、石油備蓄対策および石油開発対策の拡充・整備等を推進すること。

5、水力発電施設周辺地域交付金の充実

クリーンで安全なエネルギーである水力発電の開発促進をはかる観点から、発電施設の立地による影響緩和と関連公共施設の整備等に大きな効果を発揮している水力発電施設周辺地域交付金を拡充すること。

三二、過疎・へき地対策の推進

「過疎地域自立促進特別措置法」が施行されたが、過疎地域は、今なお引き続き若年層の流出、少子・高齢化に伴う地域活力の低下、生産機能および生活環境の整備等が他の地域に比較して低位にあるなど多くの課題に直面しているところである。

このような中、過疎地域の自立促進をはかるため、住民福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正をはかり、総合的かつ計画的な過疎対策を実施するための各種施策を着実に推進すること。

また、へき地に対する各種施策を

拡充すること。

三二、山村等地域振興対策の整備

国土保全、環境保全等で重要な役割をはたしている山村地域は、若者を中心とした人口の流出による過疎化、高齢化、活力の低下など深刻な事態に直面している。また、依然として道路交通網、文化、教育、医療、生活環境等の整備が立ち遅れ、所得水準も低い状況にある。今後、国土の均衡ある発展をほかり、多自然居住地域を築いていくため、山村地域の振興とその活性化を総合的に推進する必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、産業振興、就業機会の創出と担い手の確保

(1) 広域的な幹線道路交通網の整備等による就業機会の確保、地域資源を活用した地場産業の育成、企業等の誘致、複数地住居、都市と山村の交流の推進等、山村における産業の総合的振興をはかること。

(2) 若者に魅力ある職場を確保するため、第三セクターへの支援措置の拡充、農協と森林組合の業務提携等を推進するための体制を整備すること。

(3) 山村における農林業の後継者対策を強力に推進するとともに、奥山間、中山間地域において一定の地域指定を行い、山林保全、環境保全、水源確保等の働く場を確保し、中高年齢者の雇用を促進すること。

2、生活環境基盤の整備

町村道、農林道、作業道等の生活・産業道路網の体系的な整備、交通機能の維持確保に努めるとともに、上下水道、汚水・廃棄物処理施設、地域医療、福祉施設等の生活環境を整備し、教育施設の整備充実、CATV等のニューメディア施設による情報基盤の整備を促進すること。

3、山村地域の実態に即した財源確保対策

山村地域に対する公共投資の重点配分および「森林・山村対策」、「国土保全対策」の充実等地方財政措置を強化すること。

三三、豪雪地帯の振興

わが国の豪雪地帯は、冬の降雪による道路交通の遮断等により生活環境が著しく阻害されるほか、産業の立地も遅れているので、これらの障害をとり除き地域の振興をはかる必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、豪雪地帯対策基本計画に基づき、引き続き施策の計画的・効率的な推進をはかること。

また、道府県計画の策定を促進すること。

2、寒冷補正の充実など、豪雪地帯町村に対する財政措置を充実すること。

3、積雪寒冷特別地域道路交通確保五箇年計画を着実に実施し、豪雪地帯の道路整備を強力に推進すること。

4、雪寒道路の指定の拡大をはかり、除雪、防雪および凍雪害防止対策を推進するとともに、財政措置を強化すること。

また、国・県・市町村道を通ずる総合的な消除雪制度を確立すること。

5、医療、教育、その他行政サービスの向上と定住促進に資するため、電気通信格差是正事業を拡充するなど、高度な地域情報通信基盤整備等のための財政措置を強化すること。

6、雪寒地帯における地方バスは各種整備が必要となるため、特別な財政措置を講ずること。

7、除雪機械等の格納庫の整備費については、町村における整備を促進するため財政措置を充実すること。

8、豪雪に際して地方公共団体が行う公共の施設の除雪にかかる財政措置を改善すること。

9、豪雪地帯において、克雪、利雪、親雪等により、魅力と活力ある地域社会を形成するための事業を促進するとともに、豪雪地帯定住構想を推進すること。

10、豪雪地帯における公立学校施設の整備を促進するため、事業量の確保と財政措置を充実すること。

11、雪に強い公営住宅等の整備を計画的に推進するための財政措置を充実すること。

12、一般生活道路などの消雪に供する消流雪用水源の確保（河川表流水の利用など）をはかるための諸施策を推進すること。

13、雪崩から人命等を守るため、雪

## 活 動

崩防止施設の整備を推進すること。  
14、豪雪期における消防機能の低下を防ぐため、実態に即した消防防災施設等を整備するための財政措置を充実すること。

## 三四、半島地域の振興

半島地域は、豊かな自然に恵まれているが、三方を海に囲まれて幹線交通体系から遠く離れ、一般的に平地も少なく、また、水資源も乏しいことなど国土資源の利用面における制約から、産業振興および生活環境の整備等が立ち遅れている実情にあるので、「21世紀の国土のグランドデザイン」との整合性をはかりつつ、各種施策を推進し半島地域の振興を進める必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、全国二三半島地域の「半島振興計画」が、それぞれ着実かつ効果的に推進できるよう、半島地域町村の社会資本整備等に対する財政支援措置を充実、強化すること。  
2、道路整備五箇年計画の着実な実施をはかるとともに、半島振興に不可欠な半島循環道路、高規格幹線道路等の整備を推進すること。  
また、幹線交通体系からの遠隔性を解消するため、道路、鉄道、空港、港湾等、交通基盤の整備を推進すること。  
3、医療、教育、その他行政サービスの向上と定住促進に資するため、電気通信格差是正事業を拡充するなど、高度な地域情報通信基盤整備等

のための財政措置を強化すること。  
4、半島地域の地場産業である農林水産業の振興をはかるため、関係事業費を拡充すること。  
5、半島地域の自然条件等を活かした産業の振興をはかる観点から、観光・レクリエーション施設等の整備を促進することとし、事業費を拡充すること。

6、半島地域における生活用水および産業振興等に必要な水資源の確保をはかるための施策を講ずること。  
7、遅れが顕著な半島地域の下水道および廃棄物処理施設等、生活関連施設の整備を推進すること。  
8、高齢社会に対応した福祉・保健、医療対策を総合的に推進するため、諸施設の整備等を促進すること。  
9、特色ある半島地域の伝統文化と伝統産業の継承・発展をはかるため、人材の育成・確保の取組を支援すること。

10、半島地域における高潮、津波等による被害を防止し、あわせて快適な海岸利用をはかるための海岸保全施設・環境整備等にかかる所要予算を確保すること。  
11、半島地域の一体的振興をはかるため、連携・交流を基調とする諸施策を推進すること。  
12、半島振興対策実施地域の追加にかかる指定基準を弾力的に運用すること。  
13、半島振興法にかかる税財政、金融上の特例措置を充実すること。

## 三五、離島地域の振興

離島は、環海性、隔絶性、狭小性など厳しい制約により、生産、生活基盤が立ち遅れているので、速やかに解消し、離島町村の活性化と住民の生活安定をはかつていく必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、離島振興事業費ならびに過疎債、辺地債の所要額を確保するとともに、地方交付税への算入の強化等、離島町村に対する財政措置を充実すること。

また、離島相互間の格差是正をはかるため、小型離島の振興対策を総合的に推進すること。

2、離島道路の整備を促進するための助成措置の充実強化をはかるとともに離島間等の架橋事業を促進すること。  
3、離島航路の充実確保

(1) 離島航路を充実、維持するとともに財政措置を強化すること。  
(2) 離島航路の大型化、高速化、便数増加のための離島航路近代化建造にかかる財政措置を改善すること。

また、運輸施設整備事業団の融資条件を緩和すること。

4、離島港湾の果たす重要な役割にかんがみ、港湾機能の拡充強化のための施設および外海離島における補完港の整備等を推進すること。  
5、離島航空路線は、離島振興のため不可欠の交通機関となっているので、「離島航空整備法」(仮称)の制定などにより、離島航空路線の維

持、安定をはかること。

6、離島の農林漁業振興対策を強力に推進すること。

7、離島における漁港施設の整備を推進するとともに、漁港漁村の環境整備等を促進すること。

8、離島における水不足の解消対策を推進するとともに、ゴミ処理施設等生活環境施設に対する財政措置を充実すること。  
9、医療、教育、その他行政サービスの向上と定住促進等に資するため、電気通信格差是正事業を拡充するなど、高度な地域情報通信基盤整備のための財政措置を強化すること。

また、離島における救急医療・巡回診療体制の整備を促進すること。  
11、離島における地域コミュニケーションの活性化および若者の定住を促進するため、体育施設、レクリエーション施設、教育・文化等関係施設の整備を推進するため、財政措置を充実すること。

三六、観光地所在町村の振興

観光地所在町村は、環境衛生施設、消火力の整備など、観光行政にかかわる特別な施策と財政負担を余儀なくされている。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、税財源の充実・強化

活 動

- (1) ゴルフ場利用税は、道路整備、環境対策など観光地所在町村の行政サービスと密接な関連を有しているとともに、その一〇分の七が関係市町村に交付されており、地域振興をはかる上で重要な役割を果たしているため、本税の充実、確保をはかること。
- (2) 入湯税の税率を引き上げること。
- (3) 観光客によって消防、清掃等に多額の経費が必要になっていることを考慮して、関係町村の実情に即した財政措置を講じること。
- 2、観光基盤施設の整備
  - (1) 観光地所在町村における下水道施設および廃棄物処理施設の整備を推進するため、財政措置を充実すること。
  - (2) 観光客等の円滑な交通を確保するため、道路をはじめとした高速交通網等、観光地へのアクセスの整備を推進すること。
  - (3) 観光・レクリエーション活動が豊かで恵まれた自然の中で手軽にできるよう、観光基盤施設を着実に整備することとし、財政措置を充実すること。
  - (4) 自然公園等の施設整備について長期的計画を樹立し、その整備を推進すること。
  - (5) 空きカン、空きビンの散乱防止を含むごみの減量化と再生利用をはかるリサイクルシステムの運用にあたっては、観光地所在町村が積極的に取り組めるよう配慮するとともに、新たな財政負担について必要な

- 措置を講じること。
- (6) 観光情報基盤の高度化、利活用の容易化をはかるため、観光情報のデジタルデータベース化等により、観光情報基盤の整備を推進すること。
- 3、宿泊施設の大規模化や高層化等にかんがみ、はしご車、化学車を増強するなど、消防力の強化をはかること。
- また、阪神・淡路大震災等の教訓を踏まえ、耐震性の強化、防災基盤の整備等、安全対策を強力に推進すること。
- 4、ウエルカムプラン（訪日観光交流倍増計画）等の外国人観光客誘致対策については、特に地方観光圏対策を推進し、観光地所在町村の国際化と活性化をはかること。
- 5、中小零細企業が大半を占める観光産業の振興及びサービス向上を図るため、緊急に外客訪日促進及び受入体制の整備を図ることとし、大規模な海外観光宣伝、外客案内設備の整備及び良質なパート労働者の養成事業を行うこと。

三七、水源地域対策の強化

- ダム等が所在する水源地域の町村は、過疎化・高齢化等厳しい条件下で、治水・利水・国民生活の安定、産業の発展等水の確保及び自然環境の保全等、公益的な役割を担っており、関係町村の振興をはかるため各種施策を推進する必要がある。
- よって、国は次の事項を実現されたい。
- 1、水源地域対策の強化
  - (1) 水源地域対策特別措置法による指定ダムの全てに第九条の特例を適用するとともに、ダム建設による水没者の生活再建について、起業者の責任を明確化するなど、同法の改善をはかること。
  - また、同法成立前の既設ダム所在地域に対し、同法の準用措置を設けること。
  - (2) 水資源開発公団が所有するダムの用に供する家屋及び償却資産に課する固定資産税にかかる現行課税標準額の特例措置を廃止すること。
  - (3) 国有資産等所在市町村交付金の対象ダムの範囲を拡大するとともに、現行の算定標準額の特例措置を廃止すること。
  - (4) 水源地域町村に対する財政措置を充実すること。
  - (5) 水源地域対策基金の運営に対する国の税財政上の援助措置を強化するとともに、基金設立の全国的な展開を促進すること。
  - (6) 安定的な維持用水の放流計画を確立するとともに、環境保全及び防災に関する施策等の拡充をはかること。
  - (7) 水源地域の活性化をはかるとともに、地域間交流支援事業等による上下流連携を推進すること。
  - 2、水資源開発の推進
    - (1) ウォータープラン21を踏まえるとともに、水行政における国・地方を通ずる体制の整備をはかること。
    - (2) ダム所在町村に新たな水利需要が生じた場合、ダム使用权又は水利

- 権を優先的に取得できるよう、所要の制度を確立すること。
- (3) 水質管理体制の充実強化及び下水道整備の促進をはかること。
- (4) 地下水の人工涵養及び地盤沈下防止のための事業を、国の直轄事業として制度化すること。
- (5) 水源複層林の整備及び水源林特別対策の拡充をはかるとともに、放置山林の対策を強化すること。

三八、産炭地域対策の推進

現行の石炭政策は、「石炭鉱業の構造調整の完了に伴う関係法律の整備等に関する法律」（以下「石炭関連整備法」とする）の成立に伴い、平成十三年度末をもって終了となるが、産炭地域の中には、今なお、過去の閉山・合理化の影響を受け、人口の流出、財政の悪化等多くの問題を抱え、社会的・経済的に極めて厳しい状況にある。

よって、国は、次の事項を実現されたい。

- 1、産炭地域対策に必要な財源の確保

平成十三年度における産炭地域振興対策、鉱害対策および炭鉱労働者

●町村週報の購読●

「町村週報」の購読を希望される方は、八ガキに住所、氏名、職業、電話番号をお書きのうえ、全国町村会広報部へお申し込みください。年間一部十五百円。料金は請求書をお送りしてから折返し御送金ください。〒100-0001 東京都千代田区永田町1-1-35 全国町村会広報部。

活 動

雇用対策等に係る必要な財源を確保するとともに、平成十四年度以降において産炭地域の自立的な経済・社会システムの構築に向けて中心的な役割を担う中核的企業主体に対する基金を増額すること。

2、激変緩和措置の確実な実施

平成十四年度以降における「石炭関連整備法」に基づく以下の激変緩和措置の実施に当たっては、産炭地域の今後の自立・発展に資するよう地元の実情を十分配慮すること。

- (1) 鉱害復旧および被災山災害対策
- (2) 炭鉱離職者の雇用対策
- (3) 市町村が行う特定公共事業に対する国庫助成

3、地方交付税の特例措置の継続

地方交付税の算定に際し、平成十四年度以降においても、現行の普通交付税における産炭地補正と同様な地方財政上の特例措置を継続すること。

三九、非鉄金属鉱山地域対策の推進

非鉄金属鉱山地域は、所在鉱山のあいつく休閉山により、地域活力が低下し、財政基盤も脆弱化するなど厳しい状況にあるので、関係町村の振興をはかるため各種施策を推進する必要がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、鉱山所在町村振興対策の強化

(1) 鉱山所在町村の振興対策を推進するとともに、税財政措置を強化すること。

(2) 鉱山跡地の利用等鉱山資源の活用に対する財政措置を拡充すること。

(3) 鉱山施設および鉱山の技術・インフラ等を活用したりサイクル関連施策を推進することとし、その場合、鉱山所在町村の再活性化に最大限の配慮をすること。

2、休廃止鉱山所在町村における地場産業の振興、離職者雇用対策等の拡充強化をはかること。

3、鉱害防止対策の支援の強化と地域環境整備の促進をはかること。

四〇、地域改善対策の推進

同和問題は基本的人権に関わる重大な問題であり、今日に至るまで、国、地方公共団体等による地域改善対策事業の積極的な推進により、生活環境の整備を中心とする各分野で一定の成果をおさめてきたところである。

しかしながら、職業の安定、産業の振興、教育の充実や啓発等について未だ多くの課題を有しており、さらに住環境整備等の物的事業も残されている。

よって、国は次の事項を実現されたい。

1、「同和問題の早期解決に向けた今後の方策（政府大綱）」において、法的措置、行財政措置を講じることとされた事業をはじめ、人権教育・啓発にかかわる事業を推進するため、必要かつ十分な予算措置を講じ、地方公共団体の財政負担の軽減をはかること。

2、差別意識の解消に向けた教育および啓発推進のための法的措置を講じるとともに、国における総合的な調整機能を持つ機関を設置すること。また、人権侵害の防止および被害の救済に関する法的措置を講じること。

3、住宅新築資金等貸付事業に伴う償還推進助成事業については、財政措置等内容を充実するとともに、法制化すること。

4、公営住宅家賃について、特別な緩和措置を講じること。

四一、北方領土の早期返還

歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方四島は、わが国固有の領土であり、この返還を実現することは、国民の多年にわたる念願である。

よって、国はさらに強力な外交交渉を行うことにより一日も早く、その実現をはかること。

四二、竹島の領土権の確立

わが国固有の領土である竹島の領土権を確立し、周辺海域における漁場の安全操業ならびに鉱業権の安全行使が速やかに実現できるよう、国はさらに強力な外交交渉を行うこと。

全国町村会

町村長の叙勲ならびに褒章基準の改善で要望

全国町村会は六月二十二日の政務調査会及び二十三日の常任理事会で次のとおり、「町村長の叙勲ならびに褒章基準の改善」を決定した。

「要望書」

町村長は、国政の基礎をなす地方公共団体の執行責任者として、その責務は重く、教育、消防、防災、厚生、福祉、農政等あらゆる分野にわたり、その地域住民の生活の安定、向上のため困難な任務の遂行にあたっている。

しかしながら、現行の叙勲および褒章の基準は、経済界、教育関係等の各界各層のそれに比較して極めて低く、また同じ基礎的公共団体の長である市長と町村長の間においても格差がある。

よって、国は次の事項を実現されたい。

一、町村長の叙勲基準については、在職年数が十五年を超えるときは勲四等を最低基準とするなど各界各層のそれと遜色のないよう改善すること。

あわせて推薦基準年数については、市長と同様の基準で推薦できるよう措置すること。

二、町村長の藍綬褒章の推薦基準年数については、市長と同様、5期を終了した時点で推薦ができるよう二〇年に短縮すること。

次週の「町村週報」は休刊させていただきます。  
次号は七月十日発行です。

随 想

地域の特色を人づくり、  
町づくりで生かして



千葉県町村会長  
むつ 睦 沢 町 長  
河 野 功

随 想

西暦二〇〇〇年の記念すべき年  
が明け、気がつけば平成十二年度  
がスタートし、介護保険制度や地  
方分権関係の法制度が地方自治体  
の自主性や責任の上で、推進され、  
身近な住民の思いを身近な行政が  
担う取り組みが大きな役割として  
始められようとしています。

こうした地方の時代への趨勢  
は、人口八、六〇〇人の外房の一  
角に所在する小さな町においても  
無縁ではなく、むしろ生き残りを  
かけたような独自の方策やアイデ  
ィアが求められ、日々緊張と発想  
の明快さを突きつけられているよ  
うです。  
さて、昨年の暮れに「赤羽刀」  
と呼ばれる戦後、GHQによって  
接収された刀剣類が、文化庁によ  
り本町に譲与されることとなり、  
未研磨ながら歴史民俗資料館にて

展示し、多くの方々にご覧をいた  
だいております。この展覧会は、  
刀剣の美や伝統技術を見ていただ  
く刀剣展というよりも、接収に応  
じた皆さんの心情や刀剣類の希有  
な変遷によって、戦後史の一端を  
考えていただこうとするものでし  
た。

また、同じ昨年に『睦沢町民の  
戦争体験』が長年の聞き取り調査  
や手記によって刊行され、町内外  
から多くの反響をいただき、編集  
の発端を担った私も手記を持つ  
て、体験談を記載しています。戦  
争を体験し、戦後の復興を必死に  
なり支えた世代も高齢になり、貴  
重な歴史の証人も多くの言葉とし  
て伝える術が難しくなってきました。  
接収刀剣展に見学にこられる  
方々の中には、戦後の苦勞を懐か  
しく思いながら見ていらつしやる

と聞きます。

現代社会の中では、このような  
戦後の復興の歴史をじょうずに伝  
えることができただけで済ませよう  
か。ともすれば、古いもの、昔の  
考えだから聞く耳を持たないと敬  
遠されてきたように思われます。  
現在の日本は世界の先進国と肩を  
並べ、経済、文化でも眼を見張る  
発展を遂げています。

つい五十年前の日本の状況を  
しっかりと記録し、戦後の私たち  
が築いてきたもの、犠牲にしてき  
たものを知る手がかりとなる大切  
なものです。  
そして、今、合理的で大量に消  
費する経済活動で二十一世紀を豊  
かに暮らすことはなかなか難しい  
と気付きはじめ、知的資源といえ  
る教育への取り組みの必要性を特  
に考えさせられます。

経済の復興を遂げた現代日本  
は、これからは日本人の持つ優れ  
た能力を磨くことに力を入れて行  
くことでしよう。

各地の自治体で、地域の自然や  
環境、歴史や文化を活用した様々  
な特色ある活動がこの町村週報な  
どもでも報告されています。これら  
は地域振興の中の活性化を目的  
としています。新世紀に向けた  
「人づくり」がその根底にありま  
す。半世紀では達成できない道の

りかもしれません。

我が睦沢町においても、地域に  
根ざした文化や伝統、歴史や自然、  
そして環境が調和した活用を行政  
のすべての部署で意識しながら実  
践する気持ちをもう一度確かめた  
と思います。

地域を生かした町づくりは、地  
方分権の最初のステップでもあ  
り、地域に生きる住民の意見の反  
映でもあり、社会を通じた教育の  
場と成りうるのです。そして、町  
長就任以来「ふれあいと対話で温  
かい町づくり」とした基本姿勢を  
遂行することができるものと確信  
します。

そして、本日も、町長と語る会」  
に町民の方がおいでになります。  
人と人を結ぶ「親接」を胸にお話  
をうかがいたいと思います。

職員のための共済制度

■住宅火災共済■

わずか70円(年額)の掛金で10  
万円を補償します。

■自動車共済■

普通自動車が、わずか31,000円  
(年額)の掛金で、対人無制限・  
対物1,000万円の賠償額がてん  
補されます。

全国町村職員生活協同組合